
怪話篇 第二話 自殺

K1.M-Waki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪話篇 第二話 自殺

【コード】

N5465T

【作者名】

K1.M.Waki

【あらすじ】

学校や職場でいじめによる自殺が相継いでいた。だがそこには、文部科学省のある計画があった…

「よう、川村。何で、昨日来なかったんだ。御陰で、えらく恥かいたぜ。どうしてくれるんだよ。」

「ご、ごめんよう。ぼ、僕、あんな大金どうしても作れなかったんだ。」

「ごめんで済むか。俺達、おまえを当てにしてたんだぞ。」

「そうだぞ。どうしてくれるんだよ。」

「だから、悪かったよ。許してよ。」

「まあ、今度は多目にみてやるが……。」

「ようし。多目にみてやる代わりに、これをもらつとくぜ。」

「あつ、そんな。その時計、叔父さんがくれたやつ。」

「何か文句あるのか。えつ。」

「言える訳ないよな。」

「ほら、あつちいけよ。」

「そんな、ひどいよ。僕が、何したって言うんだ。あつ……」

「ごめん。」

「何してんのよ。このウスノ口。」

「ごめんよ、ごめんよう。」

「早くあつち行ってよ。もう。」

「……」

「こら！川村、こんな所で何グズグズしておるんだ。もう、授業時間じゃないか。さつさと行きなさい。」

「あつ、はい。」

「ほら、君達も。」

「こいつが、グズグズしてるから……」

「そうか。君は、後でちょっと来なさい。」
「えっ、何で僕だけ。」
「もう、こんな時間じゃないか。つべこべ言わないで、さっさと授業に出なさい。」
「あっ、……はい。」

2

「おい聞いたか？川村の奴、死んだんだってよ。」
「ああ、聞いた聞いた。飛び下りたんだってさ。」
「団地の上からだろう。ああいう所でやられると、迷惑するんだよね。」

「そうそう。掃除とか、後が大変なんだよな。」
「死んでまで、気の効かない奴なんだから。」
「けど、残念だよなあ。折角なかよくしてやったのによ。」
「そうだよ。転校して来てから、未だ三月しかたっていないのによ。」
「ちっ、張り合いなくなるぜ。」
「そうだよなあ。」
「だけど、又すぐに誰かやって来るさ。」
「そうだよなあ。川口ん時だってそうだったもんな。すぐ、川村が来てさあ。」
「そうそう。川村の奴、川口とおんなじ挨拶しやがんの。」
「早く来ないかなあ。新しい、奴。」
「それまで、退屈するなあ。」

3

「また死んだか……。最近多いよ、竹本君。文部科学省の方はどうなっているのかね。大臣としてちゃんと管理してもらわないと。」

「はあ。気をつけては、いるのですが。文科省としても、学校での彼等の行動には、十分注意はしているのですが……。どうも最

近では、子供達の間でもストレスが多くて、鬱憤晴らしのイジメは、職場の比ではありませんもので。」

「努力は、認めるがねえ。だが、こうも毎日毎日、簡単に死なれるとねえ。国の予算だって、そう多くはないのだからして……。」

「研究チームの再編成も、考えておいてくれたまえ。」

「しかし、彼等の御陰で、職場での自殺者の数は、激減したのですし、……まだまだ改善の余地はありますが、学校教育の場でも、成果はあがっています。」

「うむ。だが、統計上の数は、増えている事になっているのでね。いくら実質的には、2年前の半分以下でも、世間が少々うるさい……。」

「分かっていきます、総理。ですが……現状では、どうしても無理があるもので。」

「分かっておる。で、自殺者の出た所へは、ちゃんと送つたろうな？」

「欠員の分は、研究所から新たに送り込みました。一応、生産ラインがある程度整いましたので、……数が足りなくなるといふことは、まあ、今の所は……。それに、今回からは新型を使いますので、以前よりは耐つものと思われま……。」

「そうだと良いがな。ま、元々の遺伝子がそうなんだから、文句も言えんか。」

「そうですね。これ以上に強くすると、折角、イジメられ役に造つたクローンが、本物をイジメかねませんからなあ。」

「その通りだなあ。ははは。それはそうと、あの運転手、そろそろ新しいのにしてくれんか。だいぶ、くたびれてきてねえ。その、例の新型が良いなあ。」

「分かりました。新型は良いですよ、総理。私もなかなか重宝しますからね。」

「そうしてくれ。わしも、野党のバカ供の話ばかり聞かされていると、ストレス蓄まるからねえ。」

e
o
f
.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5465t/>

怪話篇 第二話 自殺

2011年5月28日09時26分発行